

蒸発潜熱を利用した紙ポット育苗イチゴの花芽分化促進技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
九州沖縄農業研究センター 荒木 陽一

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

促成イチゴの生産農家では、省力・低コスト化・病気予防のために導入した再生紙ポットが花芽分化を促進する現象を発見し、従来の花芽分化処理法の代わりに使用している。当研究センターで開発した蒸発潜熱を利用した冷却技術を再生紙ポットに応用し、本現象のメカニズムの解明、花芽分化促進機能を最大限に発揮するポットならびに環境調節技術を開発して、花芽分化安定化に向けた技術体系を確立する。

4 研究内容及び実施体制

① 気化冷却を促進する紙ポットの開発 (大石産業 (株))

ポットの形状等の違いに基づく冷却効果の違いを明らかにし、気化冷却に適した紙ポットを開発する。

② 気化冷却促進のための環境調節技術の開発 ((独) 九州沖縄農業研究センター)

イチゴの花芽分化を安定的なものにするために、かん水方法、送風、遮光等の環境調節技術を開発する。

③ 花芽分化を促進する苗質制御技術の開発 ((独) 九州沖縄農業研究センター)

イチゴの花芽分化を促進するために、苗の成熟程度や栄養状態等の苗質を制御する技術を開発する。

④ 生産現場の実情に応じた紙ポット利用技術の開発 (南筑後農業協同組合いちご部会)

イチゴの花芽分化を促進するため、各農家の育苗方法に応じた紙ポット利用技術を開発する。

5 目標とする成果

花芽分化が促進される紙ポットを用いた育苗技術が確立される。これにより、省力化的なイチゴ栽培技術、低コストな花芽分化促進技術、資源の有効利用が期待される。